

## エール

校長 狩野博臣

窓越しに柔らかな早春の日差しが差し込んでいます。平成31年3月1日。本日午前10時から第71回卒業証書授与式を執り行い、77名の若者たちが洋々たる未来へと向かって飛び立って行きました。「卒業」を意味する一般的な英語は graduation です。また commencement という語もあります。それは「はじめ・開始」という意味も持っています。卒業は 終わりや別れではなく、“新しい人生の始まり”でもあります。

AKB48 がこういう歌を歌っていました。「人生は紙飛行機。飛んだ距離を競うより、どう飛ぶのか、どこを飛ぶのかが一番大切。」どこをどう飛ぶのか人生のシナリオを描くのも、主人公も彼ら自身です。他人との比較ではなく、「私」らしく幸せな人生のストーリーを描いて欲しいものです。「しあわせは いつも自分の心が決める。」相田みつをさんのことばです。幸せとは巨万の富や名声を得ることではありません。幸せはインスタ映えするような華やかな世界ではなく、日常の温かさの中に輝いています。その輝きを感じる心を持って欲しい、そう願っています。

これからますます AI やロボットが台頭する社会が到来します。しかし、どんなに時代が代ろうとも、最後はモノではなく人です。人を大切にする社会を彼らと共に築きたいと思います。そのためには人と人の間に壁を作るのではなく、人と人の間には橋を架けるような人に成長してくれることを願っています。「馬鹿やろう」と言えば、「何だこの野郎」としか返ってきません。怒りは怒りしか生みません。憎しみは憎しみしか生まないのです。それは壁です。しかし、笑顔で「ありがとう」と言えば、笑顔で「どういたしまして」と返ってきます。これが橋です。自ら進んで人と人の間に橋を架ける人のもとには、自然と人が集まるようになっています。そしてその人たちが、彼らの人生を豊かで彩りのあるものにしてくれると信じています。

旅立つ君たちへ。どうか忘れないで欲しい。我が子の身を案じ、我が子の帰りを待ちわびている父や母がいるということ。どうか思いを馳せて欲しい。西の空に沈む太陽は、今日もふるさとの空を赤く染めているということ。どうか思い出して欲しい。77名の仲間たちは、この空の下どこかで今日も懸命に生きているということ。そして、どうか誇りにして欲しい。口加高校が母校であるということ。

卒業式の答辞の中で、卒業生代表の荒木瑞姫さんは「世界一の仲間、世界一の保護者、世界一の先生」と私たち教員も世界一と言ってくれました。これ以上の教師冥利に尽きる言葉はありません。この言葉を聞いた教員は胸を熱くしたことでしょう。その言葉に恥じぬよう、今後とも精進してまいります。

4月には新一年生が入学してきます。本格的な春はすぐそこまで来ています。